

〔曲名〕 Serenata

セレナータ

〔曲種〕

〔作曲者〕 Giorgio Miceli

ジョルジョ ミチェリ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

”セレナータ”は、大正13年武井守成が著した「マンドリン・ギター及其オーケストラ」の222頁に”現イタリアの皇帝ヴィットリオ・エマヌエール三世陛下誕生の年、

即ち1870年にナポリで開かれた博覧会に初めて百人以上の大合奏が行われ、ジョルジョ・ミチェリ

(Giorgio Miceli) 作曲の”海浜博覧会小夜曲”が演奏された。

これはマンドリンの流行の基をなすと共に、マンドリン合奏勃興の機運を作るに大なる貢献をなしたものである。”……と記されている曲なのです。

1870年と言えば、明治3年、サミュエル・アデルスタインの著”マンドリン・メモリーズの中に紹介されている

フィレンツェのムニエル、ビアンキ等も加わっている”マルゲリータ皇后マンドリン合奏団”の写真は1895年前後のものと推定されますが、その時ですらロンバルド型とナポリ型のマンドリンが相半ばしているので、1870年頃であったならば、

その大半がロンバルド型のマンドリンでしめられていたと思われます。

6弦で最高弦がGのため高音が無造作に使用されています。

同じG.Miceliのセレナータで、F.フランチアの編曲したものがあり、大体それと推測していたのは誤りでした。

この原譜はソプラノ、テノール、バスの合唱を伴ったピアノ伴奏譜で出版(E.Lucca)され、ナポリの海浜博覧会の為に作曲された、とあり、

ピアノの冒頭に”Chitarre e Mandolini”と断ってあります。

言わば、マンドリンの歴史的な意味のある曲なので食指が動きました。

G.Milliという人の詩（合唱部）も載っていますが、合唱部の音は全部楽器の中に含んでおります。

1992年 12月 発行

マンドリン合奏曲集 1 集（JMU版 パート譜付）より